平成29年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成29年3月31日制定

（序　文）

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、平成25年3月29日付け24受庁文第1465号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成23年3月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。また、平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムへ積極的に参画する。

なお、本年度は新国立劇場開場20周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の現代舞台芸術の振興と普及に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1　文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア　次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

①　芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動

(a)　芸術文化振興基金（以下「基金」という。）による助成

ⅰ.　現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動

ⅱ.　美術の展示、映像芸術の普及その他の活動

ⅲ.　異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等

(b)　文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）による助成

ⅰ.　我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動

ⅱ.　優れた日本映画の製作活動

②　文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの（以下、(a)、(b) は基金による助成）

(a)　文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動

(b)　伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動

また、上記に加え、平成30年度から補助金により実施することとしている地域の劇場・音楽堂等の活性化と水準向上を図る助成事業について、助成対象活動の募集、審査及び交付内定等の手続きを進める。

③　その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振

興又は普及を図るための活動（以下、基金による助成）

(a)　アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動

(b)　文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ　助成金交付事務の効率化等

①　基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表する。

②　助成対象活動について、専門委員及び専門調査員並びにプログラムディレクター及びプログラムオフィサー（以下「PD・PO」という。）等により、採択の審査過程で当該活動に期待された点の実現状況の確認などを目的とした公演等調査を行う。特に、補助金による助成対象活動のうち、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の 4 分野については、調査結果を踏まえて事後評価を行い、評価結果を次年度の助成対象活動の採択のための審査等に活用する。

・　公演等調査：500 件以上（助成対象活動数）

③　助成対象活動に係る会計の執行状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、PD・PO が中心となって、助成対象活動等について、助成対象団体との意見交換を実施する。

・　会計調査：90 件以上（団体数）

④　助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等の結果を踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行う。

また、より効果的な助成事業の在り方を検討する基礎的資料とするため、公的な助成を受けた公演の実施場所の分布状況や鑑賞者の動向及び文化芸術活動に対する助成によって生じた定性的・定量的な波及効果等について調査研究を行い、その成果を随時ホームページに掲載する。

⑤　地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付に係る業務等の効率化が図れるよう、地方公共団体と連携・協力する。

⑥　助成金交付事務手続きの合理化を図るため、平成 28 年度に実施した「助成金の電子申請に関する実態調査」の結果も踏まえて、応募書類の電子データによる受付の実施について引き続き検討する。

基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間を 35 日以下とする。

ウ　基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

エ　芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知を図り、芸術文化振興基金の受入拡充に努める。

オ　PD・PO 等を活用した審査・評価等の仕組みについては、今後とも文化庁と連携し、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。事後評価については、助成対象団体に評価結果を正確かつ確実に伝達し、団体における評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等を促進するため、評価結果を書面で通知する。

また、芸術文化振興のための助成事業の在り方に関しては、現在、文化庁で実施する地域の劇場・音楽堂等の活性化と水準向上を図る助成事業について、平成30年度以降、振興会が行う助成事業と一体的に実施するものとし、文化庁と連携しつつ、本事業の募集、審査及び交付等、その具体的な制度について検討し構築する。

カ　東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業については、平成28年度に交付決定を行った助成対象活動の実施状況とその活動の成果について、フォローアップを行う。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア　文化芸術団体が基金を含めた多様な助成制度を活用することができるよう、官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集し、ホームページ等を通じて提供する。

・　ホームページ目標アクセス件数：140,000件

イ　振興会が実施する文化芸術活動に対する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させる。また、引き続き助成対象活動の事例集を作成・配布するとともに、ホームページに掲載する。

ウ　助成対象活動の募集に当たっては、ホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ　芸術団体等を対象とした応募相談会を、東京及び大阪のほか、各地域の主要都市で開催する。

2　伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア　伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。

イ　演目の拡充

①　歌舞伎について、「復活上演候補演目一覧」の見直しの一環として、未翻刻作品の翻刻を含めた2作品の補綴を行い、上演用準備台本を作成するとともに、「国立劇場文芸研究会」において、上演候補台本準備稿の作成作業を進める。

また、歌舞伎の新作脚本募集要項について、見直した上で周知及び応募受付を行う。

②　文楽について、新作の上演に向けて上演台本作成作業を行う。また、廃絶演目の復曲作業を進めるとともに、上演に向けた準備作業を行う。

③　大衆芸能の新作脚本募集について、要項を見直した上で、「浪曲」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。

④　能楽について、新作狂言の委嘱制作による上演を行う。また、国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された、新作・復曲作品の再演を行う。

⑤　組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目や、古典の様式を踏まえた新作組踊の上演を行う。

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。

(3) 青少年等を対象とした公演

ア　伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施するほか、社会人や親子等を対象とした入門企画を別表4

のとおり実施する。実施に当たっては、各公演等の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

イ　青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫する。実施に当たっては、各公演の連携協力を強化するなど、その充実を図る。

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

ア　外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。

イ　我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。

①　共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施する。

②　全国各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施する。

③　国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施する。

(5) 快適な観劇環境の形成

ア　観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行う。

また、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮し、劇場内外の環境整備等各種サービスの充実に努める。

イ　入場券販売において、インターネットやスマートフォンなど、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。

ウ　公演内容等の理解を促進するため、公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示を行う。また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を行う。

エ　アンケート調査等により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見･要望については、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。また、内容を集計・分析し、その結果をサービスの向上に活用する。

(6) 広報・営業活動の充実

ア　効果的な広報・営業活動の展開

①　公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。

②　振興会各種事業に関する広報の充実に努め､ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。

(a)　ホームページについて､各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに､アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。

・　日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：3,000,000 件

・　国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：297,000 件

・　新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：4,000,000 件

(b)　メールマガジン等により、公演等の情報を随時配信する。

(c)　外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報

発信を強化する。

③　振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。

・　日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）

・　国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）

・　新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）

④　観劇を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券等を企画・販売するほか、各種キャンペーンを企画・実施する。

⑤　団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。

⑥　若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営し、サービスを提供する。また、引き続き会員校の増加に努めるとともに、利用者の要望等を踏まえ、サービスの拡充を図る。

⑦　全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ　個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇の促進のため、会報等による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、引き続きアンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用する。

新規会員について、会員向けサービスの周知により、引き続き増加に努める。

①　あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）

・　会報「あぜくら」（毎月発行）

・　会員向けイベント：年 8 回程度

・　目標会員数：18,200 人

②　国立文楽劇場友の会

・　「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）

・　会員向けイベント：年 6 回程度

・　目標会員数：8,100 人

③　国立劇場おきなわ友の会

・　「国立劇場おきなわ友の会会報」（年 4 回発行）

・　会員向けイベント：年 3 回程度

・　目標会員数：1,900 人

④　クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）

・　会報「ジ・アトレ」（毎月発行）

・　会員向けイベント：年 12 回程度

・　目標会員数：10,000 人

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア　中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を次のとおり貸与する。

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	74 日	78%
本館小劇場	120 日	69%

演芸場	104 日	88%
能楽堂本舞台	171 日	69%
文楽劇場	86 日	65%
文楽劇場小ホール	106 日	54%
国立劇場おきなわ大劇場	74 日	43%
国立劇場おきなわ小劇場	119 日	61%
（小計）	854 日	67%
新国立劇場オペラ劇場	26 日	40%
新国立劇場中劇場	226 日	82%
新国立劇場小劇場	126 日	78%
（小計）	378 日	68%
（合計）	1,232 日	67%

※　使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供（主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演）を行った日数の割合。

イ　各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。

①　各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。

②　パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。

③　利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。

④　利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。

⑤　他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

3　伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア　中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施する。

①　歌舞伎俳優・音楽

（歌舞伎俳優）

(a)　歌舞伎俳優第 23 期生（研修期間 2 年、9 名）の 1 年目の養成を行う。

（歌舞伎音楽）

(b)　竹本第 23 期生（研修期間 2 年、3 名）の 1 年目の養成を行う。

(c)　鳴物第 16 期生（研修期間 2 年、2 名）の 1 年目の養成を行う。

(d)　長唄第 7 期生（研修期間 3 年、2 名）の 2 年目の養成を行う。

②　大衆芸能

(a)　寄席囃子第 14 期生（研修期間 2 年、4 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。

(b)　寄席囃子第 15 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

③　能楽（ワキ・囃子・狂言：研修期間 6 年）

(a)　第 9 期生（2 名）の 4 年目の養成を行う。

(b)　第 10 期生（3 名）の 1 年目の養成を行う。

④　文楽（太夫、三味線、人形：研修期間 2 年）

(a)　第 28 期生（4 名）の 1 年目の養成を行う。

⑤　組踊（立方・地方：研修期間３年）

(a)　第５期生（10 名）の１年目の養成を行う。

イ　研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

①　既成者研修発表会を次のとおり実施する。

(a)　歌舞伎俳優既成者研修発表会（2 公演実施）

・　稚魚の会・歌舞伎会合同公演（本館小劇場）8 月 17 日～20 日、8 回

・　上方歌舞伎会（文楽劇場）8 月 24 日～25 日、4 回

(b)　歌舞伎音楽既成者研修発表会（1 公演実施）

・　音の会（本館小劇場）8 月 11 日～12 日、2 回

(c)　能楽既成者研修発表会（3 公演実施）

・　若手能（京都：観世会館）7 月 8 日、1 回

・　若手能（大阪：大槻能楽堂）1 月 20 日、1 回

・　若手能（東京：能楽堂）2 月 3 日、1 回

(d)　文楽既成者研修発表会（4 公演実施）

・　文楽若手会（文楽劇場）6 月 24 日～25 日、2 回

・　文楽若手会（本館小劇場）6 月 29 日～30 日、2 回

・　若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8 月 25 日、1 回

・　若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）3 月 1 日、1 回

(e)　組踊既成者研修発表会（1 公演実施）

・　若手伝承者公演（国立劇場おきなわ大劇場）3 月 17 日、1 回

②　能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

ウ　実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア　中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

①　オペラ研修（研修期間３年）

(a)　第 18 期生（5 名）の３年目の研修を行い、修了を予定。

(b)　第 19 期生（5 名）の２年目の研修を行う。

(c)　第 20 期生（5 名）の１年目の研修を行う。

(d)　第 21 期生（5 名程度）の募集を行う。

(e)　研修発表会等（3 公演実施）

・　試演会（新国立劇場小劇場）6 月 30 日～7 月 2 日、3 回

・　修了公演（新国立劇場中劇場）3 月 9 日～11 日、3 回

・　歌唱コンサート（新国立劇場中劇場）11 月 14 日、1 回

(f)　修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9 月～10 月と 3 月に海外研修を行う。

②　バレエ研修（研修期間２年）

(a)　第 13 期生（7 名）の２年目の研修を行い、修了を予定。

(b)　第 14 期生（6 名）の 1 年目の研修を行う。
(c)　第 15 期生（6 名程度）の募集を行う。
(d)　バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
・　第 8 期生（2 名）の 2 年目の研修を行う。
・　第 9 期生（3 名）の 1 年目の研修を行う。
・　第 10 期生（若干名）の募集を行う。
(e)　研修発表会等（3 公演実施）
・　発表公演（新国立劇場中劇場）11 月 18 日～19 日、2 回
・　修了公演（新国立劇場中劇場）3 月 24 日～25 日、2 回
・　「バレエ・アステラス 2017」（新国立劇場オペラ劇場）7 月 22 日、1 回
③　演劇研修（研修期間 3 年）
(a)　第 11 期生（12 名）の 3 年目の研修を行い、修了を予定。
(b)　第 12 期生（11 名）の 2 年目の研修を行う。
(c)　第 13 期生（16 名）の 1 年目の研修を行う。
(d)　第 14 期生（16 名程度）の募集を行う。
(e)　研修発表会等（3 公演実施）
・　試演会（新国立劇場小劇場）10 月 27 日～31 日、6 回（予定）
・　修了公演（新国立劇場小劇場）2 月 2 日～7 日、6 回（予定）
・　朗読劇「ひめゆり」（新国立劇場小劇場）8 月 4 日～6 日、4 回（予定）

イ　実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、成果が不十分なものについては廃止を含め、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを行う。

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア　養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。

また、研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介 DVD の活用、研修見学会の実施等により周知し、応募者の増加を図る。

イ　研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術の振興・普及のため、研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。

また、外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努める。

ウ　伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。

エ　国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用して、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れや外部研修への協力等に努める。

4　伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア　中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

①　歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、上演内容の理解促進に活用する。

②　日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究を行い、次のとおり刊行等を行う。

(a)　「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十二巻の刊行及び第十三巻の刊行準備

(b)　「義太夫年表」昭和篇第四巻の刊行及び第五巻の刊行準備

(c)　「琉球・沖縄芸能史年表」第十二集の刊行準備

③　伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を行う。

(a)　演芸資料選書・12「御屋舗番組控」第一冊の刊行

(b)　未翻刻戯曲集第二十四巻の刊行

(c)　正本写合巻集（2 冊）の刊行

イ　中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

①　伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

各館においては、伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集する。

図書については、開架図書を充実させるとともに、ホームページで蔵書検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。

②　収集した資料等を活用し、次のとおり刊行を行う。また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与する。

(a)　特別展示図録の刊行（能楽堂）

③　収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、インターネットにより公開する。

(a)　図書、資料及び公演記録等について、引き続き次の情報のデータベース化を行う。

・　図書（本館筋書）

・　錦絵

・　ブロマイド

・　公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）

(b)　デジタルコンテンツを次のとおり作成する。

・　文化デジタルライブラリーユネスコ無形文化遺産コンテンツ「能楽への誘い」の多言語版の製作

・　舞台芸術教材「歌舞伎事典」英語版の製作

(c)　文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：620,000 件

ウ　収集した資料等を別表 8 のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア　中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

① 現代舞台芸術に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会やリーディング公演を実施する。

② 海外の劇場等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、公演プログラムやホームページ等において公開する。

③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行う。

④ 日本の現代舞台芸術に関する年表を作成しパネル展示等で紹介する。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。

① 情報センターについて、閲覧室の開架図書を充実させるとともに、ホームページで所蔵資料検索サービスを提供するなど、一般の利用の促進に努める。

② 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。

③ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等を、別表 8 のとおり展示公開する。実施に当たっては、引き続き、舞台美術センター資料館の活用方法について検討するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。

イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携し、一層の有効活用を図る。

ウ 公開講座等、普及活動の実施

① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表 9 のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の 80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実に努める。

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。

③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施する。

④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進するため、全国の文化施設や学校等における普及活動の充実を図る。

⑤ 「現代舞台芸術入門オンラインツアー」を継続して公開するとともに、オンラインコンテンツを充実させ、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

(1) 効率化に関する取組

ア 情報システムの活用

① 業務システムの安定稼動を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。

② 基幹ネットワークの再構築等の情報システムの更新に際しては、外部サービスを活用するなど情報セキュリティの強化に努める。

③ 情報セキュリティ対策に関する意識を高めるため、各職員の自己点検や専門家による研修に加え、実践型訓練等を実施する。

イ 事務手続きの簡素化

館内 LAN の活用、各種マニュアルの整備等により事務手続きの効率化を図るとともに、決裁事務の簡素化を進める。

ウ 契約の適正化

① 「調達等合理化計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。また、その取組状況をホームページで公表する。

② 契約監視委員会で定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。

③ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

④ 契約事務の効率化を図るため、他機関との共同調達を実施する。

エ 省エネルギー、リサイクルの推進

① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策計画書等を作成し二酸化炭素（CO2）の削減を推進する。

② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。

③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及びリサイクル可能ゴミの分別収集等を徹底する。

④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。

⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

(2) 給与水準の適正化

役職員の給与について、国家公務員の給与制度に関する総合的見直し等の動向を踏まえ、規定の整備等必要な措置を講ずる。また、給与水準の適正化に関する検証結果や取組状況について公表する。

(3) 組織機構の在り方の検討

業務運営の効率化等の進捗状況や過去の組織改正の効果を踏まえ、引き続き人員配置など組織機構の再編について検討し、必要な措置を講ずる。

(4) 保有資産の有効利用

施設の有効利用のため、引き続き適切な管理・運用に努めるとともに、各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加に努める。

また、金融資産については、経済状況を踏まえつつ、適切な管理・運用に努める。

(5) 内部統制の充実・強化

ア 平成 28 年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

イ 上記の自己点検評価をもとに、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

ウ　理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を整備するとともに、監事及び監事監査に係る機能の充実・強化を図る。

エ　国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。

Ⅲ　予算

1　予算　　別紙１のとおり

2　収支計画　　別紙２のとおり

3　資金計画　　別紙３のとおり

Ⅳ　短期借入金の限度額

運営費交付金の受入の遅延が生じた場合、短期借入金の限度額（10 億円）の範囲内で借り入れを行う。

Ⅴ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1　人事に関する計画

(1)　職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

(2)　事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。

ア　公演業務、営業業務等の内部研修を実施する。

イ　会計、人事関係業務等の外部研修を活用する。

ウ　職員の心身の健康の保持増進を図る。

2　施設・設備に関する計画

(1)　施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙 4 のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。併せて「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」及び「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画（行動計画）」を踏まえ、「個別施設計画」の策定に着手する。また、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施する。

国立劇場本館・演芸場等隼町地区の施設・設備（以下「国立劇場等」という。）の改修については、国立劇場等大規模改修基本計画を踏まえ、その方針を基本設計及び実施設計につなげるため、具体的な調査研究を行うとともに、引き続き PFI 事業の実施に向けた手続きを行う。

なお、国立劇場等大規模改修に向けた検討及び調査研究については、評議員会、国立劇場等大規模改修懇談会等の意見を踏まえながら、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となって実施する。

(2)　快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場等については、今後の改修計画との関連に留意する。

３　その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る。

［別表1］伝統芸能の公開に関する計画

1　歌舞伎　　目標入場者数：224,000人　　（28年度計画目標248,500人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月3日～27日	25回	25日	24,000人
11月歌舞伎公演	〃	11月3日～26日	24回	24日	17,000人
12月歌舞伎公演	〃	12月3日～26日	24回	24日	22,500人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	26,800人
3月歌舞伎公演	〃	3月4日～27日	24回	24日	16,000人
本公演（5公演）小計			122回	122日	106,300人
6月歌舞伎鑑賞教室　解説「歌舞伎のみかた」「歌舞伎十八番の内　毛抜」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	54,300人
7月歌舞伎鑑賞教室　解説「歌舞伎のみかた」、「一條大蔵譚」	〃	7月3日～24日	44回	22日	63,400人
鑑賞教室（2公演）小計			90回	45日	117,700人
歌舞伎（7公演）合計			212回	167日	224,000人

2　文楽　　目標入場者数：174,770人　　（28年度計画目標177,600人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月文楽公演「寿柱立万歳」「菅原伝授手習鑑」「加賀見山旧錦絵」	本館小劇場	5月13日～29日	34回	17日	17,000人
9月文楽公演	〃	9月2日～18日	34回	17日	16,500人
12月文楽公演	〃	12月7日～19日	13回	13日	6,770人
2月文楽公演	〃	2月10日～26日	51回	17日	21,400人
12月文楽鑑賞教室　解説「文楽の魅力」、「未定」	〃	12月7日～19日	24回	13日	12,800人
本館（5公演）小計			156回	77日	74,470人
4月文楽公演「寿柱立万歳」「菅原伝授手習鑑」「楠昔噺」「曾根崎心中」	文楽劇場	4月8日～30日	44回	22日	19,300人
夏休み文楽特別公演	〃	7月22日～8月8日	54回	18日	21,500人
11月文楽公演	〃	11月3日～11月26日	46回	23日	19,900人
初春文楽公演	〃	1月3日～25日	44回	22日	21,100人
6月文楽鑑賞教室「二人禿」、解説「文楽へようこそ」、「仮名手本忠臣蔵」	〃	6月9日～22日	28回	14日	18,500人
文楽劇場（5公演）小計			216回	99日	100,300人
文楽（10公演）合計			372回	176日	174,770人

3　舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等　　目標入場者数：15,635人　　（28年度計画目標26,590人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月舞踊公演「名作歌舞伎舞踊」	本館大劇場	5月27日	1回	1日	1,100人
8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館小劇場	8月26日	1回	1日	340人
11月舞踊公演「舞の会－京阪の座敷舞－」	〃	11月23日	2回	1日	1,000人
3月舞踊公演「素踊りの会」	〃	3月17日	2回	1日	680人
6月邦楽公演「日本音楽の流れⅠ－箏－」	〃	6月10日	1回	1日	370人
10月邦楽公演「邦楽名曲鑑賞会」	〃	10月7日	1回	1日	400人
10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	10月21日	1回	1日	570人
12月邦楽公演「漱石とゆかりの人の邦楽」	〃	12月2日	1回	1日	440人
1月邦楽公演「邦楽鑑賞会－長唄の会－、－三曲の会－」	〃	1月13日～14日	2回	2日	1,000人
11月雅楽公演「雅楽」	〃	11月11日	1回	1日	395人
3月雅楽公演「国風歌舞」	〃	3月3日	1回	1日	550人
9月声明公演「舞楽法会」	本館大劇場	9月9日	1回	1日	1,270人
6月民俗芸能公演「高千穂の夜神楽」	本館小劇場	6月24日	2回	1日	960人
1月民俗芸能公演「番楽」	〃	1月27日	2回	1日	750人
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	4月22日	1回	1日	390人

7月 第7回伝統芸能の魅力「大人の＜雅楽＞＜声明＞」	〃	7月22日	2回	1日	1,050人
7月 第8回伝統芸能の魅力「親子で楽しむ＜舞踊＞＜邦楽＞」	〃	7月23日	2回	1日	730人
9月特別企画公演「映像娯楽における語りの世界（仮）」	〃	9月23日	2回	1日	940人
本館（18公演）小計			26回	19日	12,935人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月14日	2回	1日	850人
8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8月19日	1回	1日	450人
3月琉球芸能公演	〃	3月10日	2回	1日	1,000人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5月13日	1回	1日	400人
文楽劇場（4公演）小計			6回	4日	2,700人
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（22公演）合計			32回	23日	15,635人

4　大衆芸能　　目標入場者数：53,330人　　（28年度計画目標51,460人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 (5月･1月は中席のみ)	241回	219日	36,300人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	3,320人
新春名人会	〃	1月2日～7日	8回	6日	2,360人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 (1月を除く)	11回	11日	3,160人
特別企画公演（10公演）	〃	毎月実施 (4月・1月を除く)	14回	14日	3,930人
演芸場（56公演）小計			286回	262日	49,070人
浪曲名人会	文楽劇場	2月24日	1回	1日	670人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5月27日	2回	1日	290人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,300人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	4,260人
大衆芸能（64公演）合計			313回	288日	53,330人

5　能楽　　劇場：能楽堂　　目標入場者数：38,980人　　（28年度計画目標35,895人）

区分	公演名	期間	回数	日数	目標入場者数
定例公演	狂言「子盗人」、能「采女」	4月12日	1回	1日	580人
	狂言「苞山伏」、能「雲林院」	4月21日	1回	1日	580人
	狂言「隠狸」、能「藤」	5月10日	1回	1日	580人
	狂言「大般若」、能「賀茂 素働」	5月19日	1回	1日	580人
	狂言「蝸牛」、能「雷電」	6月7日	1回	1日	580人
	狂言「伯養」、能「班女」	6月16日	1回	1日	580人
	月間特集・音阿弥－没後550年－ 狂言「八幡前」、能「善知鳥」	7月5日	1回	1日	580人
	月間特集・音阿弥－没後550年－ 狂言「隠笠」、能「山姥」	7月19日	1回	1日	580人
	狂言「狐塚」、能「大江山」	9月6日	1回	1日	580人
	狂言「月見座頭」、能「小督」	9月15日	1回	1日	580人
	狂言「仁王」、能「龍田 移神楽」	10月4日	1回	1日	580人
	演出の様々な形・養老改元1300年 狂言「御茶の水」、能「養老 水波之伝」	10月20日	1回	1日	580人
	狂言「鈍根草」、能「実盛」	11月1日	1回	1日	580人
	演出の様々な形・養老改元1300年 狂言「水汲」、能「養老 薬水」	11月17日	1回	1日	580人
	月間特集・夏目漱石と能－生誕150年記念－ 一調「土蜘蛛」、狂言「悪太郎」、能「七騎落」	12月6日	1回	1日	580人
	月間特集・夏目漱石と能－生誕150年記念－ 狂言「因幡堂」、能「景清」	12月15日	1回	1日	580人
	能「難波」、狂言「松楪」	1月6日	1回	1日	580人
	狂言「鬼継子」、能「忠度」	1月19日	1回	1日	580人
	月間特集・近代絵画と能 狂言「無布施経」、能「頼政」	2月7日	1回	1日	580人
	月間特集・近代絵画と能 狂言「痩松」、能「熊野 花之留」	2月16日	1回	1日	580人

	狂言「音曲聟」、能「千手」	3月7日	1回	1日	580人
	狂言「太刀奪」、能「求塚」	3月16日	1回	1日	580人
定例公演（22公演）小計			22回	22日	12,760人
普及公演	解説、狂言「膏薬煉」、能「野守 白頭」	4月8日	1回	1日	610人
	解説、狂言「呼声」、能「清経 替之型」	5月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「舟渡聟」、能「半蔀」	6月10日	1回	1日	610人
	月間特集・音阿弥－没後550年－ 解説、狂言「入間川」、能「二人静」	7月8日	1回	1日	610人
	解説、狂言「蟹山伏」、能「天鼓」	9月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「泣尼」、能「枕慈童」	10月14日	1回	1日	610人
	月間特集・夏目漱石と能－生誕150年記念－ 解説、狂言「文荷」、能「隅田川」	12月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「伯母ヶ酒」、能「土蜘蛛」	1月13日	1回	1日	610人
	月間特集・近代絵画と能 解説、狂言「棒縛」、能「花筐 筐之伝」	2月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「墨塗」、能「船橋」	3月10日	1回	1日	610人
普及公演（10公演）小計			10回	10日	6,100人
企画公演	【狂言の会】家・世代を越えて 狂言「二人袴」、狂言「咲嘩」、狂言「首引」	4月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】新作から古典－男心の内側へ－ 新作狂言「ふろしき」、能「綾鼓」	5月25日	1回	1日	590人
	【企画公演】蝋燭の灯りによる 狂言「蜘盗人」、能「融 思立之出・笏之舞」	6月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】復曲再演の会Ⅰ 狂言「髭櫓」、復曲能「名取ノ老女」	7月28日	1回	1日	590人
	【企画公演】復曲再演の会Ⅱ 狂言「靭猿」、復曲能「鵜羽」	7月30日	1回	1日	590人
	【企画公演】働く貴方に贈る 対談、狂言「雁礫」、能「鵺」	8月3日	1回	1日	590人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「舎利」	8月5日	1回	1日	590人
	【企画公演】狂言と落語・講談 講談「谷風情相撲」、落語「花筏」、狂言「鼻取相撲」	8月24日	1回	1日	590人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「昆布売」、狂言「清水」	8月26日	1回	1日	590人
	【特別公演】 能「楊貴妃」、能「宗八」、能「烏帽子折」	9月30日	1回	1日	590人
	【企画公演】寺社と能・四天王寺 天王寺舞楽、能「弱法師」	10月28日	1回	1日	590人
	【特別企画公演】黒川能	11月10日・11日	3回	2日	1,770人
	【企画公演】働く貴方に贈る 解説、狂言「薩摩守」、能「紅葉狩」	11月30日	1回	1日	590人
	【特別企画公演】新作狂言	12月22日・23日	4回	2日	2,360人
	【特別公演】 仕舞、狂言「宗論」、能「鉢木」	1月25日	1回	1日	590人
	【狂言の会】 狂言「鍋八撥」、狂言「蛸」、狂言「千切木」	1月31日	1回	1日	590人
	【企画公演】月間特集・近代絵画と能－水底の彼方から－ 復曲狂言「浦島」、能「玉井」	2月28日	1回	1日	590人
	【企画公演】女性能楽師による 仕舞、能「高砂」	3月24日	1回	1日	590人
企画公演（18公演）小計			23回	20日	13,570人
鑑賞教室	解説、狂言「附子」、能「黒塚」	6月19日～23日	11回	5日	6,550人
鑑賞教室（1公演）小計			11回	5日	6,550人
能楽（51公演）合計			66回	57日	38,980人

6　組踊等沖縄伝統芸能　　目標入場者数：16,175人　　（28年度計画目標16,683人）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期公演	組踊「手水の縁」	国立劇場おきなわ 大劇場	4月15日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	4月22日	1回	1日	495人
	三線音楽「島唄の響き」	〃	5月13日	1回	1日	402人
	組踊「二山和睦の巻」	〃	5月27日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「八重山舞踊」	〃	6月10日	1回	1日	464人
	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	〃	7月8日	1回	1日	464人
	組踊「微行の巻」	〃	8月26日	1回	1日	339人

	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月9日	1回	1日	495人
	民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭」	〃	9月30日	1回	1日	402人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	10月7日	1回	1日	495人
	組踊「大川敵討」	〃	10月28日	1回	1日	339人
	組踊「花売の縁」	〃	12月16日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「新春琉舞名人選」	〃	1月13日～14日	2回	2日	804人
	組踊「二童敵討」	〃	1月27日	1回	1日	339人
	沖縄芝居　史劇「護佐丸と阿麻和利」	〃	2月24日～25日	2回	2日	801人
	民俗芸能　組踊「忠臣護佐丸」（読谷村喜名）	〃	3月3日	1回	1日	402人
定期公演（16公演）小計				18回	18日	7,258人
企画公演	新作組踊「初桜」	〃	7月15日	1回	1日	464人
	ゆらてぃく遊ば	〃	10月14日	1回	1日	396人
	国立劇場寄席	〃	11月11日	1回	1日	464人
	アジア・太平洋地域の芸能	〃	11月25日	1回	1日	371人
	創作舞踊と新作組踊「太鼓の縁」	〃	12月9日	1回	1日	402人
	石見神楽	〃	1月21日	1回	1日	371人
	喜劇「ぺーちんの恋人」	〃	3月24日	1回	1日	396人
企画公演（7公演）小計				7回	7日	2,864人
研究公演	山内盛彬・音楽の世界	国立劇場おきなわ小劇場	6月17日	1回	1日	149人
	「御冠船踊と琉狂言」	国立劇場おきなわ大劇場	2月10日	1回	1日	339人
研究公演（2公演）小計				2回	2日	488人
普及公演	社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	6月24日	1回	1日	396人
	琉球舞踊鑑賞教室	〃	7月29日	1回	1日	396人
	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	8月12日	1回	1日	396人
	沖縄芝居鑑賞教室	〃	9月14日～16日	3回	3日	1,263人
	組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	11月15日～18日	7回	4日	3,114人
普及公演（5公演）小計				13回	10日	5,565人
組踊等沖縄伝統芸能（30公演）合計				40回	37日	16,175人

伝統芸能分野（184公演）合計	1,035回	748日	522,890人

［別表2］現代舞台芸術の公演に関する計画

1　オペラ　　目標入場者数：73,700人　　（28年度計画目標74,300人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「オテロ」	新国立劇場 オペラ劇場	4月9日～22日	5回	5日	6,000人
「フィガロの結婚」	〃	4月20日～29日	4回	4日	5,400人
楽劇「ニーベルングの指環」第2日 「ジークフリート」（新制作）	〃	6月1日～17日	6回	6日	8,700人
楽劇「ニーベルングの指環」第3日 「神々の黄昏」（新制作）	〃	10月1日～17日	6回	6日	8,700人
「椿姫」	〃	11月16日～28日	5回	5日	7,600人
「ばらの騎士」	〃	11月30日～12月9日	4回	4日	5,800人
「こうもり」	〃	1月18日～28日	5回	5日	7,600人
「松風」（新制作・日本初演）	〃	2月16日～18日	3回	3日	4,000人
「ホフマン物語」	〃	2月28日～3月10日	4回	4日	5,000人
「愛の妙薬」	〃	3月14日～21日	4回	4日	5,000人
「ジークフリート」ハイライトコンサート ー邦人歌手によるー	新国立劇場 中劇場	5月17日	1回	1日	500人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	新国立劇場 オペラ劇場	7月10日～15日	6回	6日	9,400人
オペラ（12公演）合計			53回	53日	73,700人

2　バレエ　　目標入場者数：54,000人　　（28年度計画目標48,500人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「眠れる森の美女」	新国立劇場 オペラ劇場	5月5日～13日	5回	5日	7,300人
「ジゼル」	〃	6月24日～7月1日	6回	5日	7,800人
「くるみ割り人形」（新制作）	〃	10月28日～11月5日	7回	6日	10,200人
「シンデレラ」	〃	12月16日～24日	8回	6日	11,800人
ニューイヤー・バレエ	〃	1月6日～7日	2回	2日	3,000人
「ホフマン物語」	〃	2月9日～11日	3回	3日	4,400人
こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	〃	7月27日～30日	8回	4日	9,500人
バレエ（7公演）合計			39回	31日	54,000人

3　現代舞踊　　目標入場者数：5,300人　　（28年度計画目標4,000人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
小野寺修二 カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	新国立劇場 小劇場	6月3日～11日	5回	5日	1,400人
舞踏の今　その１ 山海塾「海の賑わい 陸の静寂―めぐり」	新国立劇場 中劇場	11月25日～26日	2回	2日	1,300人
高谷史郎（ダムタイプ） 「ST/LL」	〃	2月24日～25日	2回	2日	1,300人
舞踏の今　その２ 大駱駝艦・天賦典式「罪と罰」	〃	3月17日～18日	2回	2日	1,300人
現代舞踊（4公演）合計			11回	11日	5,300人

4　演劇　　目標入場者数：61,500人　　（28年度計画目標51,700人）

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
かさなる視点―日本戯曲の力―　Vol. 2 「城塞」	新国立劇場 小劇場	4月13日～30日	18回	16日	4,400人
かさなる視点―日本戯曲の力―　Vol. 3 「マリアの首ー幻に長崎を想う曲ー」	〃	5月10日～28日	20回	17日	4,900人
［JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―］XI 「君が人生の時」（新訳上演）	新国立劇場 中劇場	6月13日～7月2日	24回	17日	16,600人
［JAPAN MEETS… ―現代劇の系譜をひもとく―］XII 「怒りをこめてふり返れ」（新訳上演）	新国立劇場 小劇場	7月12日～30日	18回	17日	4,400人
「トロイ戦争は起こらない」（新訳上演）	新国立劇場 中劇場	10月5日～22日	21回	16日	15,000人
「プライムたちの夜」（日本初演）	新国立劇場 小劇場	11月7日～26日	24回	18日	5,700人
「かがみのかなたはたなかのなかに」	〃	12月5日～24日	24回	18日	5,900人
「赤道の下のマクベス」（日本初演）	〃	3月	20回	18日	4,600人
演劇（8公演）合計			169回	137日	61,500人

現代舞台芸術分野（31公演）合計	272回	232日	194,500人

［別表3］主に青少年を対象とした公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室　解説「歌舞伎のみかた」、「歌舞伎十八番の内　毛抜」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	54,300人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室　解説「歌舞伎のみかた」、「一條大蔵譚」	〃	7月3日～24日	44回	22日	63,400人
文楽	12月文楽鑑賞教室　解説「文楽の魅力」、「未定」	本館小劇場	12月7日～19日	24回	13日	12,800人
〃	6月文楽鑑賞教室「二人禿」、解説「文楽へようこそ」、「仮名手本忠臣蔵」	文楽劇場	6月9日～22日	28回	14日	18,500人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「附子」、能「黒塚」	能楽堂	6月19日～23日	11回	5日	6,550人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場おきなわ大劇場	9月14日～16日	3回	3日	1,263人
〃	組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	11月15日～18日	7回	4日	3,114人
伝統芸能（7公演）合計				163回	84日	159,927人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	新国立劇場 オペラ劇場	7月10日～15日	6回	6日	9,400人
バレエ	こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	〃	7月27日～30日	8回	4日	9,500人
バレエ	「くるみ割り人形」（新制作）	〃	10月28日～11月5日	7回	6日	10,200人
バレエ	「シンデレラ」	〃	12月16日～24日	8回	6日	11,800人
現代舞踊	小野寺修二 カンパニーデラシネラ 「ふしぎの国のアリス」	新国立劇場 小劇場	6月3日～11日	5回	5日	1,400人
演劇	「かがみのかなたはたなかのなかに」	〃	12月5日～24日	24回	18日	5,900人
現代舞台芸術（6公演）合計				58回	21日	48,200人

※　すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

［別表4］社会人や親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月9日	1回	1日
〃	6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	〃	6月16日	2回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月7日・14日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月17日・20～24日	12回	6日
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12月8日・11日・15日	3回	3日
〃	12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	〃	12月18日	1回	1日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月13日・19日	2回	2日
〃	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKUー BUNRAKU for Beginnersー」	〃	6月17日	1回	1日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部親子劇場）	〃	7月22日～8月8日	18回	18日
雅楽 声明	7月　第7回伝統芸能の魅力「大人の＜雅楽＞＜声明＞」	本館小劇場	7月22日	2回	1日
舞踊 邦楽	7月　第8回伝統芸能の魅力「親子で楽しむ＜舞踊＞＜邦楽＞」	〃	7月23日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月23日	1回	1日
能楽	6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6月23日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈る	〃	8月3日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	〃	8月5日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月26日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈る	〃	11月30日	1回	1日
組踊等	社会人のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	国立劇場おきなわ大劇場	6月24日	1回	1日
〃	琉球舞踊鑑賞教室	〃	7月29日	1回	1日
〃	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	8月12日	1回	1日
〃	組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	〃	11月18日	1回	1日

※　すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

［別表5］国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
受託	国立劇場おきなわ普及促進事業	沖縄県内公立文化施設	2回程度	市町村教育委員会等
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業 （国立劇場おきなわ県外公演）	愛知県名古屋市 （予定）	12月	沖縄県、他
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業 （マグネットコンテンツ育成事業）	国立劇場おきなわ小劇場	11月予定	沖縄県
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ小劇場	6月～3月 (15回予定)	（公財）沖縄県文化振興会
〃	地域招聘公演 びわ湖ホール オペラ「ミカド」	新国立劇場 中劇場	8月26日～27日 (2回)	（公財）びわ湖ホール

［別表6］全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ	6月26日 (2回)	（公財）静岡県文化財団、静岡県、他
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	7月26日～27日 (4回)	かながわ伝統芸能祭実行委員会
受託	名取市文化会館20周年記念事業 復曲能「名取ノ老女」、狂言「名取川」	名取市文化会館	10月1日 (1回)	名取市、（公財）名取市文化振興財団
共催	国立劇場おきなわ県外公演 （沖縄県文化観光戦略推進事業）	愛知県名古屋市 （予定）	12月	沖縄県、他
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室（関西公演） 「蝶々夫人」	ロームシアター京都	10月30日～11月1日 (2回)	京都市、（公財）京都市音楽芸術文化振興財団
受託	演劇「白蟻の巣」	兵庫県立芸術文化センター	4月4日～5日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	〃	穂の国とよはし芸術劇場ＰＬＡＴ	4月8日 (1回)	（公財）豊橋文化振興財団
〃	演劇「マリアの首－幻に長崎を想う曲－」	兵庫県立芸術文化センター	6月3日～4日 (2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	〃	穂の国とよはし芸術劇場ＰＬＡＴ	6月10日 (1回)	（公財）豊橋文化振興財団
〃	リーディング　近代能楽集より「熊野」	山中湖村公民館	7月17日 (1回)	山中湖村、三島由紀夫文学館
〃	こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	穂の国とよはし芸術劇場ＰＬＡＴ	9月16日 (1回)	（公財）豊橋文化振興財団
〃	〃	ウェスタ川越	9月23日 (1回)	NeCST
〃	演劇「トロイ戦争は起こらない」	兵庫県立芸術文化センター	10月26日～27日 (4回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	バレエ「くるみ割り人形」	上田市交流文化芸術センター	11月12日 (1回)	上田市
〃	〃	びわ湖ホール	11月19日 (1回)	（公財）びわ湖ホール
〃	演劇「プライムたちの夜」	兵庫県立芸術文化センター	11月29日 (1回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	演劇「かがみのかなたはたなかのなかに」	新潟市民芸術文化会館	未定	（公財）新潟市芸術文化振興財団
〃	〃	兵庫県立芸術文化センター	未定	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	〃	オーバード・ホール	未定	（公財）富山市民文化事業団
〃	〃	ｉｉｃｈｉｋｏ総合文化センター	未定	（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団
〃	〃	大野城まどかぴあ	未定	（公財）大野城まどかぴあ
〃	〃	北九州芸術劇場	未定	（公財）北九州市芸術文化振興財団
〃	〃	はつかいち文化ホール	未定	（公財）廿日市市文化スポーツ振興事業団

［別表7］国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	6月16日 (2回)	
12月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	12月18日 (1回)	
6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU －BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月17日 (1回)	
6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6月23日 (1回)	
組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室　Discover KUMIODORI」	国立劇場おきなわ大劇場	11月18日 (1回)	沖縄県、他
アジア・太平洋地域の芸能	〃	11月25日 (1回)	文化庁芸術祭執行委員会
文化交流事業（琉球芸能）	韓国	8月	韓国・国立無形遺産院

［別表8］展示に関する計画　　目標来場者数：193,867人　　（28年度計画目標185,290人）

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「かぶき入門」	伝統芸能情報館 資料展示室	4/22～7/27	96日	16,319人
企画展示「未定」		8/5～10/27	84日	11,213人
企画展示「未定」		11/3～1/28	82日	12,050人
企画展示「錦絵展」		2/10～3/31	49日	6,135人
伝統芸能情報館　小計		4回	311日	45,717人
演芸資料展「落語だよ。－江戸・上方落語入門－」	演芸場 資料展示室	4/1～7/23	97日	14,065人
演芸資料展「太神楽」（仮称）		7/29～11/26	101日	14,160人
演芸資料展「未定」		12/1～3/24	84日	11,255人
演芸場資料展示室　小計		3回	282日	39,480人
収蔵資料展	能楽堂 資料展示室	4/8～5/25	41日	4,380人
入門展「能楽入門」		6/7～8/3	50日	7,000人
特別展「備前池田家伝来　野﨑家能楽コレクション」		10/4～12/15	63日	9,700人
企画展「能の作り物」		1/6～3/25	62日	7,000人
能楽堂資料展示室　小計		4回	216日	28,080人
企画展示「豊竹呂太夫 -代々の魅力-」	文楽劇場 資料展示室	4/8～5/28	51日	13,750人
常設展示「文楽入門」		6/9～9/10	87日	25,680人
企画展示「未定」		10/5～12/2	59日	12,810人
常設展示「文楽入門」		1/3～3/11	68日	15,550人
文楽劇場資料展示室　小計		4回	265日	67,790人
企画展「琉球古典音楽」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/15～6/25	72日	3,096人
企画展「組踊」		7/8～9/17	72日	3,096人
企画展「琉球舞踊」		10/7～12/17	72日	3,096人
企画展「民俗芸能」		1/13～3/18	65日	2,712人
国立劇場おきなわ資料展示室　小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野　合計		19回		193,067人
オペラ・バレエ衣裳展示	舞台美術センター 資料館	通年	260日	800人
「舞台のデザイン～模型でみる新国立劇場のオペラ・バレエ～」		通年		
舞台美術センター資料館　小計		2回	260日	800人
公演関係展示（劇場ホワイエ）	新国立劇場内	随時		－
20周年特別展示		随時		－
「日本の現代舞台芸術」		随時		－
舞台衣裳展示（3Fギャラリー）		通年		－
公演記録写真展示（3Fギャラリー他）		通年		－
新国立劇場内　小計		5回		－
現代舞台芸術分野　合計		7回		800人
総合計				193,867人

［別表9］公開講座等に関する計画

目標参加者数：8,340人　　（28年度計画目標8,036人）

講座等名称	会場	実施時期	回数	目標 参加者数
伝統芸能サロン	伝統芸能情報館レクチャー室	隔月実施	6回	570人
公演記録鑑賞会	〃	毎月実施	12回	1,200人
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回	1,800人
能楽特別講座	〃	未定	1回	100人
公演記録鑑賞会	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回	1,500人
伝統芸能講座	〃	未定	1回	70人
公演記録鑑賞会	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回	480人
沖縄伝統芸能公開講座	国立劇場おきなわ 会議室・交流プラザ室	四半期毎	4回	180人
伝統芸能分野　合計			52回	5,900人
現代舞台芸術入門講座	舞台美術センター資料館	未定	1回	150人
DVD現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	70人
現代舞台芸術講座	新国立劇場内	毎月実施	16回	1,800人
現代舞台芸術鑑賞会（情報センター上映会）	新国立劇場情報センター	毎月実施	12回	420人
現代舞台芸術分野　合計			41回	2,440人
総合計			93回	8,340人

別紙1　予算（年度計画の予算）

平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

区　　分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
収　　入						
運営費交付金	239	6,004	647	739	2,371	10,000
文化芸術振興費補助金	3,690					3,690
施設整備費補助金		89	5	4	83	181
助成事業収入	1,148					1,148
うち基金運用収入	1,135					1,135
うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	12					12
国立劇場事業収入		2,853	34	9		2,897
公演事業収入		2,853				2,853
うち公演事業収入		2,827				2,827
うち雑収入		26				26
研修事業収入			34			34
調査研究事業収入				9		9
国立劇場おきなわ事業収入		1				1
新国立劇場事業収入		236				236
受託事業収入		6				6
一般管理収入					8	8
計	5,077	9,190	686	752	2,462	18,167
支　　出						
文化芸術振興費	3,690					3,690
施設整備費		89	5	4	83	181
助成事業費	1,460					1,460
うち人件費	238					238
うち物件費	1,223					1,223
国立劇場事業費		5,852	385	637		6,875
公演事業費		5,852				5,852
うち人件費		1,678				1,678
うち物件費		4,175				4,175
研修事業費			385			385
うち人件費			76			76
うち物件費			309			309
調査研究事業費				637		637
うち人件費				216		216
うち物件費				422		422
国立劇場おきなわ事業費		492	49	69	97	707
新国立劇場事業費		2,770	247	43	1,064	4,124
受託事業費		6				6
一般管理費					1,219	1,219
うち人件費					894	894
うち物件費					324	324
計	5,150	9,210	686	752	2,462	18,261

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙2　収支計画

平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

区　　分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
費用の部						
基金助成事業費	5,150					5,150
うち人件費	238					238
うち物件費	4,913					4,913
うち文化芸術振興費	3,690					3,690
うち芸術文化振興基金助成費等	1,223					1,223
国立劇場公演等事業費		6,015	365	613	97	7,090
公演事業費		5,546				5,546
うち人件費		1,678				1,678
うち物件費		3,869				3,869
研修事業費			317			317
うち人件費			76			76
うち物件費			241			241
調査研究事業費				544		544
うち人件費				216		216
うち物件費				328		328
国立劇場おきなわ公演等事業費		463	49	69	97	677
受託事業費		6				6
新国立劇場公演等事業費		2,467	247	43	1,064	3,820
一般管理費					1,173	1,173
うち人件費					894	894
うち物件費					279	279
減価償却費		744	8	29	39	820
計	5,150	9,226	621	684	2,373	18,054
収益の部						
基金助成事業収入	5,093					5,093
うち運営費交付金収益	239					239
うち文化芸術振興費補助金収益	3,690					3,690
うち基金運用収入	1,135					1,135
うち寄附金収入	16					16
うちその他の収入	12					12
国立劇場公演等事業収入		6,015	365	613	97	7,090
公演事業収入		5,546				5,546
うち運営費交付金収益		2,693				2,693
うち雑収入		26				26
うち公演事業収入		2,827				2,827
研修事業収入			317			317
うち運営費交付金収益			283			283
うち雑収入			34			34
調査研究事業収入				544		544
うち運営費交付金収益				535		535
うち雑収入				9		9
国立劇場おきなわ公演等事業収入		463	49	69	97	677
うち運営費交付金収益		462	49	69	97	676

うち国立劇場おきなわ事業収入		1				1
受託事業収入		6				6
新国立劇場公演等事業収入		2,467	247	43	1,064	3,820
うち運営費交付金収益		2,231	247	43	1,064	3,584
うち新国立劇場事業収入		236				236
一般管理収入					1,173	1,173
うち運営費交付金収益					1,165	1,165
うち雑収入					8	8
資産見返運営費交付金戻入		744	8	29	39	820
計	5,093	9,226	621	684	2,373	17,996
純利益	△ 58					△ 58
積立金取崩額	58					58
総利益						−

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙3　資金計画

平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

区　　分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
資金支出	11,077	9,509	686	752	4,821	26,845
業務活動による支出	6,750	8,482	612	655	2,333	18,834
投資活動による支出		1,028	74	97	129	1,328
翌年度への繰越金	4,326				2,357	6,684
資金収入	11,077	9,510	686	752	4,820	26,845
業務活動による収入	6,877	9,100	681	749	2,379	19,786
運営費交付金による収入	239	6,004	647	739	2,371	10,000
文化芸術振興費補助金による収入	3,690					3,690
公演事業による収入		3,064				3,064
公演受託事業による収入		6				6
基金運用による収入	1,135					1,135
その他の収入	1,813	26	34	9	8	1,891
投資活動による収入		389	5	4	83	481
施設整備費補助金による収入		89	5	4	83	181
その他の収入		300				300
前年度よりの繰越金	4,200	21			2,357	6,578

（注）四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙4　施設・設備に関する計画

平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

（単位：百万円）

区　　分	予定額	財源
国立劇場等大規模改修工事関連調査等	83	施設整備費補助金
国立能楽堂空調等設備整備	44	施設整備費補助金
新国立劇場空調整備端末伝送装備改修工事	54	施設整備費補助金